

# 同推協だより

No.127

2021年 11月発行  
神前地区同和教育推進協議会  
Email: kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp

第5波と言われる、夏場の爆発的な新型コロナ感染拡大により、行事・会合等が予定通り実施できない状況が続きました。人との出会いが減り、新たな刺激を受けにくくなった今、ふと気付くと様々な人権課題を見過ごしていることはありませんか？

今回の同推協だよりでは、神前地区が誇る『人権カルタ』がどんな思いで、どのように作成されたのかを掲載しています。神前同推協が大切にしてきたことを再確認し、自分自身を振り返ると共に、こんな状況だからこそ誰もが安心して住める「人権のまちづくり」を進めていきたいですね。

## 「人権カルタ」はこうしてできた！

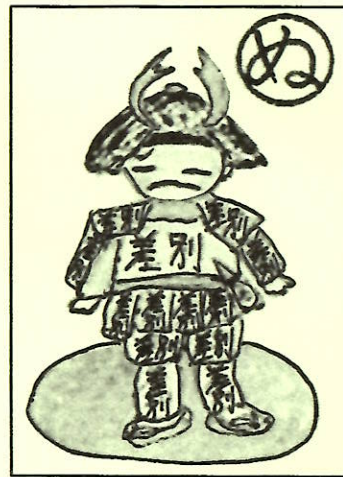


2001年、「知らんぷりせんとこに」というテーマでの委員研修を終えた後、同じような「もやもや」を体感した多くの仲間たちが集まり、「人権啓発カルタ」を作る第一歩が神前市民センターの会議室から始まりました。

カルタの基となる標語作り、一人ひとりの思いを込めた標語は、ちょっと恥ずかしい「自分」をさらけ出していたり、こうしていきたいという「自分」への宣言だったり、どれも「真の言葉」が並んでいました。・・・長い時間をかけて50音が完成。

そして、下絵・色塗り・・・親子でお母さんから聞いた標語の意味を理解し、的確に絵で表現した6年生の子どもさん、そのすごさに感動しました。

9月例会、センターの会議室、みんなの鉛筆の音だけが聞こえる会議室で私は自分の伝えたいメッセージがなかなか文字にできずにいました。やっと書けた短冊を黒板に貼り、そして、一人ひとりの思いを読み上げたとき、みんなとの不思議な何かうれしい一体感を感じました。  
(Tさんのメッセージより)



脱ぎましよう  
差別の殻をひとつずつ

私は絵が得意ではありませんでしたので、当時6年生の娘に「この標語はこんな意味があるのでこんな感じ」と書いてもらいました。色塗りはトールペイントで使っていたものを持っていきました。  
(Aさんのメッセージより)

話すたび  
見えてくるよ  
わが本音



自分の偏見や無意識の差別に気づく……それは自分の生き方を少しずつ変えていきます。  
あの人の言ったこと、自分の言ったこと……もやもやの繰り返し。  
そんな繰り返しの中で気づいていったことは、  
「差別は確かにこの私の中にある、私の日常の生活のあちらこちらにいっぱいある」ということでした。  
20年程前に作られた「人権啓発カルタ」と、その手引きとして作られた「どうしても読んでほしくてつくった小さな本」は、今も生き方の道標として、私の隣にあります。(Nさんのメッセージより)

## 「部落差別解消推進法」をご存じですか？



- この法律は、
- ① 現在もなお部落差別が存在するとの認識を示しています。
  - ② 部落差別は、日本国憲法に照らして『許されないもの』であり『解消すべき重要な課題である』と明記しています。
  - ③ 部落差別の解消に関する教育及び啓発の必要性を説き、部落差別のない社会を実現することを目的としています。
- ＜2016年12月16日に施行＞

しかしながら、法律ができれば、部落差別がすぐなくなるのでしょうか？

そっとしておけばなくなるといった、「寝た子を起すな」意見や  
「問題は、部落の側にあるんじゃないの？」



といった、自分とは無関係とする意見をよく聞きます。  
どんな方も、一生懸命生きてこられたと思います。  
ですが、そこに部落差別は必要ですか？  
差別をして、人は幸せになれるのでしょうか？

寝たふりと  
知らんぷりする ずるい人



私には  
関係ないわと逃げないで

自分自身の為に、未来を担う子ども達のために、差別は私たちの手でなくしていくことが大事ではないでしょうか？  
共に啓発活動に参加して下さる方をお待ちしています。



同推協啓発委員  
募集中！

啓発委員になって頂ける方は市民センターロビーに設置してあるポストにお名前を記入して頂き投函して下さい。 申込用紙は置いてあります。

【問合せ先】地区市民センター内 団体事務局 ☎327-1501 (午後受付)